

火山礫		Volcanology and Geothermal Research		
噴火事象イベントツリーの 分岐判断の定量化に向けて ー噴火・噴火未遂事象から の検討ー	藤田英輔	日本風工学会 誌 , 42, 261-272.	2017	国内

5. むすび

次世代火山研究推進事業は平成 28 年度から始まっており、平成 29 年度は 2 年目にあたる。本課題研究は、2 年目も当初の計画通りに順調に進めており、それぞれのサブテーマの参加機関および協力機関が、各々の研究テーマについて、この報告書にあるように着実な成果を上げていると評価している。サブテーマ 1 では平成 28 年度に東大地震研に導入された、研究の軸となる F E - E P M A について分析およびデータ処理ルーチンが構築された。それと並行して、各参加・協力機関はそれぞれの対象火山の特定噴火の物質科学的解析を進めており、いくつかの重要な成果が報告されている。サブテーマ 2 ではトレンチ掘削調査とボーリング掘削が本格的に始まった。特に最重点火山の浅間山では、従来の研究では不可能であった多数のトレンチ掘削が行われ、予想を超える成果があがった。また鬼界においても平成 30 年度にかけての 2 年計画のボーリング掘削進行中である。その他の火山についても各参加・協力機関が着実に成果を積み上げている。北大において「マグマ変遷解析センター」が実質的に立ち上がり、各機関に開放されて分析が行われている。サブテーマ 3 ではマグマ移動シミュレーションでは、噴火機構、マグマ移動過程およびマグマ物性モデル、噴火ハザードシミュレーションでは降灰ハザード、噴煙柱ダイナミクスおよびハザード評価システムに細分して、それぞれの担当者が研究開発を推進している。一方で本課題 C は人材育成コンソーシアムの事業にも積極的に協力し、実習や講義の担当、あるいはインターンシップとして学生の受け入れも行った。今後は人材育成コンソーシアムの修了者を RA として雇用し、研究の推進と火山研究人材の育成を図る計画である。

以上のように各サブテーマはそれぞれでの研究課題を推進し、順調に研究が進展していると考えている。しかし一方で、サブテーマ間の連携という観点からは十分であったとは言えない。今年度ではサブテーマ毎の研究の深化に重点を置いたと考え、次年度ではまずは課題 C 全体の連携を進めることが重要と考えている。来年度は 3 年目ということで、課題 C だけではなくこのプロジェクト全体での真価が問われることになる。各参加機関および協力機関のより一層の研究推進を期待している。